

第22回JPHMAコンGRESS、盛り沢山の中身で開催

コロナのホメオパシー的対策は万全

日本ホメオパシー医学協会



薬草 ウコンでそめあげた和服を披露

ワクチン接種副反応 サポート、レメディー有効

ワクチンの中身、毒性の異物

長演 由井名譽会長
講調 由井名譽会長

第22回JPHMAコンGRESSは中身が盛り沢山で、紙面を取り上げるのにも無理があるほどだった。各ホメオパスの症例発表、リレートーク、海外の来賓講演、それに農場からの中継と次から次と大事な話が展開された。そこで本紙では由井名譽会長の「世界を襲った新型コロナウイルスのホメオパシー的対策」と題した基調講演を中心に特集した。(編集局)



由井名譽会長

海外からの来賓講演で「ホメオパシーは多くのエビデンスを有する科学的で有効な伝統医学である」ことを裏付ける話が展開された。

その中で海外からも高い評価を得ている日本ホメオパシー医学協会の由井名譽会長は2日間に亘って基調講演を行った。

由井名譽会長は新型コロナウイルス感染症とワクチン禍へのホメオパシー的対応状況を調査するた

めのアンケートを紹介。その中で注目されたのはシニエインク現象で体調不良を経験したことがあるとの回答が70%以上。この「シニエインク現象」とは新型コロナウイルス接種者から非接種者へ呼吸や汗を通じて毒素が伝播することによって生じると推定される現象のことを言う。

殆どの人がワクチン接種の副反応で熱を出したりしているが4分の3の人があったという。確かに2回目の方が副反応酷いと言う人は多い。

そこで開発したホメオパシーのレメディーが効果を発揮。84%が効果あったという。またワクチン接種の副反応やシニエインクにホメオパシーのサポート、レメディーが有効だったという声も紹介した。

ワクチンには何が入っているのか。ロバート・0・ヤング博士が最新の分析機器を用いて分析した結果、様々な異物が入っていた。寄生虫や毒性の高いセレン化カドミウムなどが入っていることが分かった。

由井名譽会長は新しいコロナサポートの内容情報について公開した。そして由井名譽会長が行ったエリック・クラプトンさんへのホメオパシー相談の経緯についても説明した。

由井名譽会長とかねてから親交の深いエリック・クラプトンさんは、コロナワクチンを接種した後、酷い副作用に苦しまれ音楽活動も中断されていたが、由井名譽会長が処方されたレメディーが、大きな助けとなり、回復の方向に向かわれていて音楽活動も再開されたという。

その復帰第一弾となるミュージックビデオを上映し、エリック・クラプトンさんも「とても助けになった、今回コンGRESSでビデオを上映すること

について光栄に思っている」とメッセージがあった。

後半はワクチンとナカライセ・コロナ・ピタミDと肝臓との関係性についてケースと共に解説。長年感情を抑制して来たクライアントが由井名譽会長の相談会を通して、泣けるようになり、肝臓が動き始め、活性型ピタミDが増え、側弯症が改善したケースを紹介した。

由井名譽会長の「あれだけワクチンは打つなよ」と言っていたのに8割の人が打つたんだよね」と残念がっていたことが印象的だった。ワクチンの中身が分かった時点で対策のレメディーを作っていることも強調していた。

2日目の基調講演は癌をテーマに行われた。コロナワクチン接種が進み、人工物によって、人体の酸化が進む中で今後、懸念される癌の問題について、様々な視点から取り上げた。

まず癌になる理由として肉体和精神のストレスがあり、精神のストレスとしてインナーチャイルドの問題があるというところ。我慢した感情、潜在意識に沈んだ感情であるインチャの理解なくして癌の理解はできないとのこと。

そして癌と真菌と重曹の肝臓の関係についても由井名譽会長の見解が述べられ写真、動画を用いたケースが紹介された。

母の看護の中で喜びを持って生きる事を諦めてしまったクライアントが、今の生き方ではダメだと頭では思いながらも自分を見つめることができないうまま癌になってしまったケース。癌の宣告を受けて動揺しているクライアントの心に由井名譽会長がそっと寄り添い、インチャ癒しの必要性を伝えて行く中でクライアントも覚悟を持って真剣に取り組むようになった。

そして癌と真菌と重曹の肝臓の関係についても由井名譽会長の見解が述べられ写真、動画を用いたケースが紹介された。

もう一つのケースは人間扱いされなかった先祖の方々の無念を受け継ぎ骨髄壊死、膠原病、間質性肺炎を抱えたクライアントのケース。感情を出すなどと言われ、悲しみ、怒り、恐れ、喜びの全てに蓋をして生きて来た方だった。

由井名譽会長の相談会を通して低体温が改善し、間質性肺炎のマーカ1値は異常値から成長値へと改善した。

そして股関節と膝の痛みがあったのだけれども由井名譽会長の提案を受けて御岳ツアーに参加し365日の階段に挑戦したとのこと。「無事にやり遂げられて本当に良かった。

た、ツアー参加者で足の不自由な人が一生懸命に登る姿が勇気になった」という感謝が述べられた。そしてその後、感情を出せるようになり、関節の痛みがなくなったという感動的な報告もあった。

最後に由井名譽会長が結論として「私が潰瘍性大腸炎になったとしてもそれが癌化しなかったのは、ホメオパシーや自然農の野菜のおかげであり、自分のニーズを叶えてあげ、自分の感情に正直に叶えてあげたことだった」と話し、母から自分には愛されなかったことを知り、ガマンする事ではなくインチャ癒しをし、愛されたい悲しみ、恐れ、怒りを、正直に吐き出し書き出し、イメージで愛された満足感を味わうこと。御神仏様としっかり繋がるといふことで人生が肯定でき、癌にならなかった」と語り講演を終えた。

由井名譽会長の基調講演を真剣に聞く参加者
コンGRESSの再配信は11月末まで延長



名譽会長の相談会を通して、泣けるようになり、肝臓が動き始め、活性型ピタミDが増え、側弯症が改善したケースを紹介した。

もう一つのケースは人間扱いされなかった先祖の方々の無念を受け継ぎ骨髄壊死、膠原病、間質性肺炎を抱えたクライアントのケース。感情を出すなどと言われ、悲しみ、怒り、恐れ、喜びの全てに蓋をして生きて来た方だった。

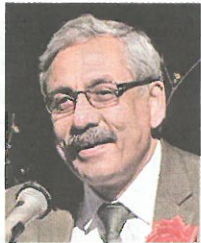
由井名譽会長の相談会を通して低体温が改善し、間質性肺炎のマーカ1値は異常値から成長値へと改善した。

そして股関節と膝の痛みがあったのだけれども由井名譽会長の提案を受けて御岳ツアーに参加し365日の階段に挑戦したとのこと。「無事にやり遂げられて本当に良かった。

た、ツアー参加者で足の不自由な人が一生懸命に登る姿が勇気になった」という感謝が述べられた。そしてその後、感情を出せるようになり、関節の痛みがなくなったという感動的な報告もあった。

新しい科学だ

ホメオパシーは新しい科学だ AYUSH省 マンチャンダ長官



ホメオパシーは多くのエビデンスを有する科学的で有効な伝統医学である

とすると立場をとるインド政府AYUSH省で長官を務めるマンチャンダ氏により、昨今の新型コロナウイルス問題についてホメオパシー的な観点から様々な考察を話した。

インド(世界)では過去のスペイン風邪や豚インフルにおいても感染症やパンデミックに対してホメオパシーを活用してきた経緯があり、そのころからその効果についてのデータの収集などが行われてきている。

今回の新型コロナウイルスに関するインド政府をあげてのガイドラインを設定し予防から、症状に対するの対応法、その後の対処法などまでを示唆している。

特に重要なのは予防に関してで、それはまず自分自身の免疫を高めること。免疫が高い状態であれば感染リスクは下がります。また感染しても合併症など起こしにくく重症な症状を防ぐことができ

る。その免疫を上げることが出来る療法がアーユルベータやホメオパシーであるということ。

また様々な形で調査やテスト、統計がとられており、データベースが作られ、各国のグループからも症例やデータが集められてきている。そしてその結果を踏まえ、ホメオパスや医師などの教育

やトレーニングも行われ、またセルフケアとしてもゆるま湯をのむことやヨガ、呼吸法、スバイスや食事療法なども含めた対策の情報が伝えられているとのこと。またこれからも各国での様々なテストや統計を携っていき、必要なと訴え、最後には「ホメオパシーは新しい科学である」と力強い言葉で締めくくった。